

**本質的な問い** 命を守るために、自分たちに出来ることは何だろう。

**単元名** 思いをつなげる4YOUチーム🌱～守ろう天応・災害伝承大作戦～

**児童生徒の実態**

- ・平成30年7月豪雨（西日本豪雨）について知っている。…45%
- ・西日本豪雨で天応地区にどんな被害があったか知っている。…45%
- ・自分が住む地域に起こりやすい災害について理解している。…55%
- ・平成27年度生まれの4年生は、西日本豪雨の記憶がない児童がほとんどで、本単元を始めた時、当時何が起こっていたかを知っていると答えた児童は半数以下だった。
- ・入学以来毎年7月に防災集会に参加して、当時の話を聞く体験を重ねているが、正しい知識として児童に伝わっていない実態がある。

**目指す具体の姿（育成を目指す資質・能力）**

- 【知識・技能】（情報収集力）
  - ・災害への備えや自助の大切さ、自分と地域を支える人の努力や工夫を理解することができる。
  - ・いろいろな体験や人との出会い、本やメディア等の情報から、必要な情報を集めることができる。
- 【思考力・判断力・表現力等】（情報活用能力及び批判的思考力）
  - ・安心して過ごせる地域づくりのための課題解決に向け、学習計画を立てるとともに、集めた情報を比較分類、整理し、特徴を見つけて、説明することができる。
  - ・発信したい内容を分かりやすく伝えるための方法を考え、根拠をもちながら相手に応じて分かりやすく表現することができる。
- 【学びに向かう力、人間性等】（協働性及び挑戦心）
  - ・自分のよさに気づき、他者の意見や考えのよさを生かしながら協働して学び合うことができる。

**単元を貫く問い** 豪雨災害で得た教訓から、自分たちにできることは何だろう。

【探究課題】 自分や家族、地域の人々が自分の命は自分で守れる天応を目指した取組（防災）

**【第3次】（23時間） 課題 今私たちができる「未来に向けた取組」を実行しよう。**

**個別の問い**

- ・今後も豪雨災害の事実や備えの大切さを伝えていくには、どうすればよいだろうか。
- ・自分のたち伝えたいことは伝えられたのだろうか。
- ・50年後の天応はどうなっているだろう。
- ・天応は豪雨災害だけに備えればいいのか。
- ・やりたいこと（企画）を実現させるにはどんな手順が必要かな。
- ・伝える方法（伝承の形）には、どんなものがあるのだろうか。
- ・未来へつなぐために、防災公園を生かすことができないかな。
- ・学習を通して、自分の考えが変化したり成長したりしたのはどんなことだろう。

まちづくりサポーター  
つなごう@天応

自治会連合会会長

天応市民センター

天応西条公園

作文等

文化祭後のアンケート

呉工業高等専門学校の学生

動画  
紙芝居  
絵本

（しかけ）

- ・自分たち4年生が直接伝える方法に加えて、未来に残せる形で「伝承」を実現できる方法はないか考えるようにする。
- ・今も天応のために活動している人の様子や願いを聞き、未来の天応地区を守るためにできる取組や方法を考えるようにする。

**【第2次】（20時間） 課題 西日本豪雨の記録と記憶をどう生かすか考えよう。**

**個別の問い**

- ・防災集会で発表したことは児童生徒にどう伝わったのだろうか。
- ・4年生の発表を見た人たちはどのようなことを感じただろう。
- ・天応学園の人には伝えたが、これでもう十分だろうか。
- ・被災した人の思いは十分に伝えられただろうか。
- ・命を守るためには、過去の事実を伝えるだけで十分だろうか。
- ・今年は自分たちが伝えたけど、今後どうなるだろう。
- ・誰に、何を、何のために、どのような形で伝えるとよいだろう。
- ・知り得たたくさんの情報をどのように生かすとよいだろう。
- ・集会での発表で、どんな力がついたと思うか。
- ・天応に伝承館がないことを、どう感じるか。
- ・砂防堰堤はどのようにつくられたのだろう。
- ・防災公園に込められた思いとはなんだろう。
- ・被災した人達が一番伝えてほしいことは何だろう。
- ・伝え方にはどんな方法があるのだろうか。

防災集会後の振り返り

お茶の間サロン等での情報収集

自治会連合会会長

砂防堰堤

天応西条公園

地域の方の  
思いと願い

家族

広島市豪雨災害伝承館

まちづくりサポーター  
ボランティア つなごう@天応

呉工業高等専門学校の  
学生と現地踏査

（しかけ）

- ・西日本豪雨での天応の被害を、今年度だけでなくこの先ずっと語り継いでいくため、自分達に出来ることは何かを考えられるようにする。
- ・被災した人の思いや願いを大切に、地域の人たちの命を守る事ができるように、多くの人に伝える方法を考えられるようにする。

**【第1次】（27時間） 課題 天応に起こった災害、当時の様子や被災した人の気持ちを知ろう。**

**個別の問い**

- ・平成30年7月豪雨（西日本豪雨）のことを知っているか。
- ・西日本豪雨では、天応にどんな被害があったのだろう。
- ・7年前のことを知る先生たちが天応学園から居なくなったら、だれが伝えるのだろう。
- ・自分たち同様、災害を詳しく知らない低学年に教えてあげたい。
- ・いざというときに天応学園のみんなが命を守れるよう伝えたい。
- ・自分たちがもっと知りたいこと、知っておくべきことは何かな。
- ・天応学園の子は、西日本豪雨を知っているのだろうか。
- ・被災した人はどんな思いをもっているのだろう。
- ・防災集会で伝えられるかな。
- ・低学年にはどのようにしたら伝わるだろう。
- ・災害をどのように伝承しているのだろう。

個々の土砂災害対応携帯マニュアル

実態をつかむための  
在校生へのアンケート

元天応中学校校長

当時の天応中学校を  
知る教員

広島市豪雨災害伝承館

（しかけ）

- ・児童自身がどれだけ地元天応で起こった災害について知っているかを問い、正しい知識が不足していることに気付けるようにする。
- ・西日本豪雨を知らず、豪雨の恐ろしさに気付かない子どもたちが増加することに危機感を抱き、自分たちに何が出来るか考えられるようにする。

**3サイクル 「今私たちができる「未来に向けた取組」を実行しよう。」**

**【課題の設定】**  
 ・新1年生や校内外の人に伝えるための伝承館(仮)の設置を実現させるには、どんな準備が必要か考える。



・伝承館スペースはどこでできるか決めたい。  
 ・天応学園の人がよく通ったり見たりすることが必要だから、校長室の前の壁や図書メディアセンターがいいと思う。  
 ・どうやって校長先生に許可をもらえばいいのか。



**【まとめ・表現】**  
 ・伝承スペースのお披露目・宣伝  
 ・成長したことをふりかえる。



・1年前には、西日本豪雨が何年何月何日にあったかなんて知らなかったけど、今はだれかに聞かれたら「平成30年7月7日にあったんだよ。」と言えます。  
 ・4月は何を考えたらいいかわからなかったけれど、今は自分で考えることができている。  
 ・新1年生に分かりやすい資料にまとめる力がついたし、伝承スペースを作るのにか心配だったけど、できてよかったです。  
 ・成長したことは、チームでしっかり協力できたことです。来年もこの力を使って総合に取り組んでいきたいです。



新1年生のように、これから天応で生活する子供たちに伝える方法とは。

**【情報の収集】**  
 ・伝承館スペース実現までのプロセスを想定して、そこまでの課題を挙げる。  
 ・企画書の書き方を呉工業高等専門学校の学生に教えてもらう。  
 ・企画書を作成して、校長先生に許可をもらいに行く。

・はじめて企画書と聞いたときは、できるかどうか不安だったけど、呉工専の学生さんと一緒につくってみたら、どんどん考えがまとまって行って、すごいと思いました。



**未来の天応のためにできることは?**

挑戦 協働  
 創意工夫 試行錯誤

選んだ情報をもとに、  
 どうやって伝えよう?

**【整理・分析】**  
 ・伝えるための工夫や技を呉工業高等専門学校の学生に教えてもらう。  
 ・これまでに関わった方に、まとめた資料を見て意見をもらう。



・呉高専の学生さんのアドバイスのおかげで、どうしたら伝わるかを考えることができました。  
 ・読む人の気持ちになってなかったことが分かった。自力で気付かなかったことを教えてもらえました。

**2サイクル 「西日本豪雨の記録と記憶をどう生かすか考えよう。」**

**【課題の設定】**  
 ・防災集会のふりかえりから課題を決める。  
 ・学んだことをどのように生かすか考える。



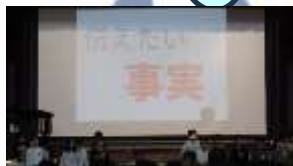
・教えてもらったことや調べたことが本当か知りたい。  
 ・天応中学校がどうなっているのか知りたい。  
 ・今度は文化祭でも発表して伝えたい。  
 ・天応には伝承館がないから、伝承館(仮)を作りたい。



学んだことを、  
 どうすれば生かせるかな。

**【まとめ・表現】**  
 ・文化祭で児童生徒と保護者、地域の方に発表する。  
 ・発表後にふりかえり

・文化祭で伝えることができたけど、来年入学してくる新1年生には、何も伝えられていないから、学校に伝承館(仮)を作って伝えたい。  
 ・文化祭を終えて、西日本豪雨災害をもっとと伝承していきたいと思った。  
 ・小さい子にとって意味が分からないかもしれない。どうやったら伝わるか心配。



**「伝える」私たちにできることは?**

目的を達成するためには  
 どんな情報を、選ぶべきかな。

**【情報の収集】**  
 ・呉工業高等専門学校の学生と現地踏査  
 ・元天応中学校と砂防堰堤の見学  
 ・情報収集の協力をお願いする手紙の作成  
 ・被災された方のお話を聞く。



今までの調査から、西日本豪雨は、天応の周辺に大きな被害をもたらした。また、天応の周辺には、多くの人が住んでいる。そのため、天応の周辺には、多くの人が被害を受けた。天応の周辺には、多くの人が住んでいる。そのため、天応の周辺には、多くの人が被害を受けた。

**【整理・分析】**  
 ・情報の整理の仕方を知る。  
 ・文化祭や伝承館(仮)で伝える情報を選ぶ。  
 ・大切にしたい思いを共有する。

**1サイクル 「天応に起こった災害、当時の様子や被災した人の気持ちを知ろう。」**

**【課題の設定】**  
 ・「防災と聞いて思い浮かぶことは？」  
 ・「7年前の西日本豪雨を知っている？」  
 ・「天応にどんな被害があったのだろうか。」

平成30年7月豪雨(西日本豪雨)について知っている。	45%
西日本豪雨で天応地区にどんな被害があったか知っている。	45%
自分が住む地域に起こりやすい災害について理解している。	55%

**西日本豪雨、知ってる?**

・携帯マニュアルを見る。防災リュックを準備すること。  
 ・西日本豪雨は、なんとなく知ってるけど分からない。  
 ・西日本豪雨は聞いたことはあります。・知りません。  
 ・天応中学校に土が入って、もう使われなくなりました。  
 ・地震が起って津波が来た?

まとめ・表現

情報の収集

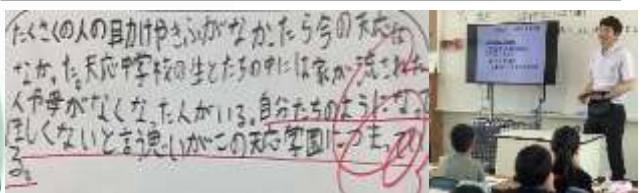
**【まとめ・表現】**  
 ・西日本豪雨に関する事実と災害を知る人の思いをまとめて、防災集会で在校生へ向けて発表する。  
 ・発表後にふりかえり



まず4年生が知る。  
 天応学園の人達は知っているのかな?

整理・分析

**【情報の収集】**  
 ・天応学園の在校生が、どれだけ西日本豪雨のことを知っているか調査する。  
 ・7年前の天応中を知る先生に話を聞く。  
 ・広島市豪雨災害伝承館の方に話を聞く。展示を見る。



**【整理・分析】**  
 ・教えてもらったことから、伝えたいことを選ぶ。  
 ・正しい情報を得るために、自分達でも調べる。  
 ・自分たちにできることは何か考える。

